

景子の神奈川行脚

【7月】

- 1日 津波避難タワー見学
- 2日 市民相談、女性議員の会
- 3日 おひさま保育、打ち合わせ、藤沢大磯線促進会
- 4日 茅ヶ崎朝駅頭、部長会議、商工労働常任委員会
- 5日 茅ヶ崎朝駅頭、ライオンズクラブ定例会
- 6日 団会議
- 7日 海開き、民主党常任幹事会
- 8日 JR東日本労組大会
- 9日 市との打ち合わせ、団会議、本会議、国民連合世話人会
- 10日 小金井市どろんこ保育所、回帰船保育所見学
- 11日 民主党予算ヒアリング、地方議員交流会打ち合わせ
- 12日 民主党予算ヒアリング、ライオンズクラブ定例会
- 13日 おひさま保育、県政ニュース配布、市政懇談会、ミーティング
- 14日 WE21ちがさき会議、ちがさき日中友好協会準備会、オアシス15周年
- 15日～17日 台湾視察
- 18日 脱原発グリーンテーブル会議
- 19日 ドットジェイピー面接、フェミニスト議員連盟世話人会、展覧会
- 20日 おひさま保育、相談、山水会
- 21日 市川房枝政治参画フォーラム
- 22日 市川房枝政治参画フォーラム、車椅子レクダンス
- 23日 放射能検査、商工労働ヒアリング
- 24日 演劇サークル、おひさま保育、料理を楽しむ会
- 25日 茅ヶ崎朝駅頭、映画「ぬちがふう」実行委員会
- 26日 茅ヶ崎朝駅頭、平和行進、神奈川の臨調検証
- 27日 鎌倉視察、韓国多文化共生学習会
- 28日 ちがさき日中友好協会総会、TOTOまつり、夕涼み会、暑気払い
- 29日 災害ボランティア交流会
- 30日 茅ヶ崎朝駅頭、県政ニュース配布
- 31日 おひさま保育、野球応援会

【8月】

- 1日 茅ヶ崎朝駅頭、予算要望とりまとめ
- 2日 茅ヶ崎朝駅頭、演劇鑑賞、ライオンズクラブ定例会
- 3日 茅ヶ崎朝駅頭、市民相談、なんでも夜市
- 4日・5日 全国フェミニスト議員連盟夏合宿inまつやま
- 6日 東北避難者訪問
- 7日 おひさま保育、県政ニュース配布
- 8日 茅ヶ崎朝駅頭、熱海花火大会
- 9日 茅ヶ崎朝駅頭、宇宙フォーラム、ライオンズクラブ理事会
- 10日 茅ヶ崎朝駅頭、市民派議員会議講演会、連合街頭活動
- 11日 WE21ちがさき会議、逗子市おひさま保育室視察、盆踊り
- 12日 盆踊り
- 16日 防災警察常任委員会傍聴、災害条例ヒアリング
- 18日 市民活動説明会、盆踊り
- 20日 おひさま保育
- 21日～24日 韓国スタディツアー
- 24日 勝又衆議院議員暑さを吹き飛ばす会
- 25日 盆踊り、映画会「ぬちがふう」
- 26日 盆踊り、防災訓練
- 27日 予算要望まとめ
- 29日 商工労働委員会視察、懇親会
- 30日 監査学習会、映画会街頭宣伝、ライオンズクラブ定例会
- 31日 おひさま保育、官邸前デモ参加

【9月】

- 1日・2日 東北支援ボランティア
- 3日 韓国スタディツアー反省会、予算ヒアリング、なぎさ議連懇親会
- 4日 おひさま保育、団会議、予算説明会、勝又恒一郎氏次の飛躍を応援する会
- 5日 茅ヶ崎朝駅頭、JR東労組と市ヒアリング、市民相談、商工部会懇親会
- 6日 茅ヶ崎朝駅頭、保育園キッズランド見学、神奈川議員懇談会
- 7日 おひさま保育
- 8日 WE21ちがさき会議、日朝のついで柳美里講演会
- 9日 WE21ちがさき会議、市民集会
- 10日 クオータ制推進の会国会行動
- 11日 部長会議、団会議、本会議、日華議連懇親会
- 12日 おひさま保育、クオータ制推進の会国会行動、国民連合実行委員会
- 13日 敬老大会、本会議
- 14日 おひさま保育、本会議
- 15日 市川房枝政治参画フォーラム「ジェンダー予算学習会」
- 16日 みこし保存会社行会
- 17日 映画「毎日がアルツハイマー」上映会
- 18日 おひさま保育、本会議
- 19日 茅ヶ崎朝駅頭、商工部会県内視察
- 20日 本会議
- 21日 本会議
- 22日 湘南ニアクラブ
- 23日 湘南藤沢徳洲会病院開院式
- 25日 本会議、フェミニスト議員連盟世話人会
- 26日 本会議
- 27日 保育園見学
- 28日 演劇鑑賞
- 29日 小出川彼岸花まつり、地方自治と子ども施策シンポジウム2012in目黒
- 30日 地方自治と子ども施策シンポジウム2012in目黒、オリンピック・パラリンピック報告会



どろんこ保育所見学



平和行進に参加



韓国スタディツアー



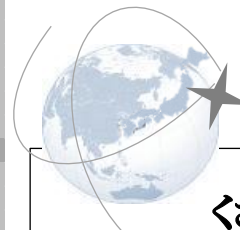
防災訓練



クオータ制推進の会国会行動



「毎日がアルツハイマー」上映会



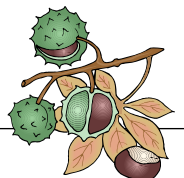
くさか景子のバスツアー

防衛省 NHKスタジオパーク見学

- ◆日時 2012年10月31日(水)
午前 6:30 集合 7:00 出発 18:00 頃茅ヶ崎着
- ◆集合場所 茅ヶ崎市役所分庁舎と市民文化会館の間の道に集合
- ◆見学スポット 防衛省市ヶ谷台・NHKスタジオパーク
- ◆募集人数 45名(申し込み順)
- ◆参加費用 2,500円
(NHK入場料、昼食代、保険料、当日ご持参ください)

【申し込み・問い合わせ先】

◇神奈川県議会議員 くさか景子事務所
Tel&Fax 0467-58-0290
e-mail:future@grace.ocn.ne.jp



神奈川県議会議員 くさか景子の県政報告



発行責任者 神奈川県議会議員 くさか景子
連絡先 くさか景子事務所
〒253-0043 茅ヶ崎市元町 3-17 村田ビル 202
Tel&Fax 0467 (58) 0290 e-mail future@grace.ocn.ne.jp
http://www3.ocn.ne.jp/~children/



くさか景子 検索

くさか景子のハチドリのごとく

第三回県議会定例会報告 前半 9月11日 神奈川州を目指す

知事は、初日の提案説明で、907万人の人口を擁する神奈川県は、単独でも道州制の一つの州になれる人口や経済規模を有しているとし、財源・権限・責任を持つ「神奈川州」を目指すとしています。しかし、まだ「器」の段階、県民からもパブリックコメントを募集しています。

補正予算 16億4,300万円

● 県立高校45校の空調整備費約4億円 ● 神奈川科学技術アカデミーの特区進出助成1億9千万円 ● 原子力防災通信システム整備2千万円 ● 災害拠点病院の自家発電整備4千万円

県の緊急財政対策案

緊急財政対策調査会から最終意見が出され、県の方針がまとまりました。財政見直しは、平成25年度7百億円、26年度9百億円、27年度千6百億円の財源不足が生じます。



1. 県有施設の見直し

「施設廃止」「市町村・民間への移譲」「指定管理者制度等民間活力の導入」「運営・収支改善を図り、引き続き県直営」の方向性を検討します。

2. 補助金・負担金の見直し

重点的見直し ● 運営費補助金、1件百万円未満の少額補助金、多年にわたる(25年程度を目安)交付されている補助金。

その他、人件費の抑制や公共建築工事の積算方式の見直しもされます。この対策案は、議会の議論、市町村や団体の意見を聞き、平成25年度当初予算に反映されることとなります。

教育のあり方

「神奈川の教育を考える調査会」で別途検討を始めています。検討項目は、義務教育・高校教育・特別支援教育の3分野で、平成26年度予算に反映する予定となっています。

◇ 今回の対策案は、聖域を設けず、ゼロベースから徹底的な見直しを行う方針

ですが、県民サービスにかなり影響を及ぼすので、県民・企業・団体・市町村との十分な理解と合意、協力を得ながら進める必要があります。



黒岩知事と

くさか景子のほっとコラム

災害廃棄物受入の新たな提案!

県では、東北の焼却灰の受入について、地元合意が得られず頓挫しました。現在、東北3県の災害廃棄物は自区内処理が進んできていますが、未だ広域処理は必要です。特に岩手県からは、漁具・漁網5万4千トンの処理の要請があります。岩手県内の一番北の洋野町の漁網1600tを切断、フレコンバッグに詰め、焼却せず、トラック又は船で輸送、横須賀の県環境整備センターに埋立処分するという計画です。放射能濃度は100ベクレル以下の方針は堅持し、事前の漁網を測定したところ不検出、空間線量は0.05マイクロシーベルトということですが、地元自治会では、今検討中とのことですが、今度こそ、放射能問題などへの説明責任や合意形成に丁寧な対応が求められます。

原発社会を目指して！

原発事故子ども・被災者支援法が成立

福島事故での長引く放射能汚染に苦しむ被害者の支援・救済を目的に、6月21日にできました。17年前のチェルノブイリ原発事故後の「チェルノブイリ法」を参考にしています。在留者・避難者双方に国の責任として支援を行うこと、特に子ども（胎児含む）の健康影響の未然防止、健康診断及び医療費減免などが盛り込まれています。

一定の評価はされますが、理念法であるため、今後は、対象地域・予算措置などが鍵となります。この法律に対し、被災者や市民団体が「市民会議」を設立し、支援対象地域の範囲を少なくとも年1ミッシェルベルト以上の地域を含めることの提言を出しています。この法が被災者の声が反映される生きた内容になることを祈ります。

原発基本法制定へ

国では、2030年代に原発ゼロとの一応の方針を出しましたが、まだ不安定な状況です。これに先立ち、9月7日超党派の議員で「原発基本法案」を国会に提出しました。原発を「遅くとも20年から25年までのできる限り早い3月31日までの実現」とするほか、最新の科学的知見に基づく災害防止基準に適合しない限り、原発の運転を認めないなどと定めています。すでに

継続審議となっているようですが、原子力ムラの巻き返しが加速している現状から早めの可決に向けて頑張っています。私も、原発に向けては、次の総選挙の最大の争点になってほしいと思っています。

民主党のグリーンテーブルに参加

私は、8月に「原発ゼロをめざす自治体議員の会」に入りました。私たち自治体議員のやるべきことは、政府を「原発」の道に向かわせるべく力を結集することです。さらに、民主党の地方議員で作る「グリーンテーブル」にも参加し、活動しています。

政府・民主党へ行うこと

● 党・政府の方針として原発を明確にすること

● 地域主権を担う地方議員と政策形成の場を作ることの申し入れ

自治体としてできること

● 条例の制定

● 意見書の提出（再生エネルギーの普及、促進など）

● 地域主権を担う地方議会からの政策提案、エネルギーの持続可能な地域モデルの実現

個人でできること

● 省エネ、創エネの促進



官邸前デモに参加

くさか景子と行く東北支援ボランティア第2弾！

9月1日(土)・2日(日)
参加者：くさか景子と有志5人

岩手県遠野市にある神奈川県ボランティア拠点施設「金太郎ハウス」に泊まり、NPO法人「まごころネット」のサポートで活動を行いました。

今回の活動場所は、遠野からバスで1時間、鉄とサッカの街、釜石市の鶴の住居というところ。釜石の奇跡と呼ばれ、中学校の生徒が小学生の手を引いて山に逃げ、全員助かったことで有名です。

しかし、鶴の住居一帯は津波の被害を受け、土台だけが残る中、雑草が背丈より高く生い茂る、あるお宅の雑草を狩り、瓦礫を撤去するボランティアです。

このお宅は近いうちに土台を一齐に撤去される予定です。でも「片付ける必要はない」のではなく被災した自分の家を綺麗にしたいという気持ちに込められていること。さらに、1年半経過してもまだボランティアの人たちが忘れないでいてくれるというだけで、元氣や勇氣を与えられるのです。

1人の力は小さく、できることは少ないけれども、継続は力なり、東北の人たちに寄り添うことはとても大きいことです。



東北支援ボランティアに参加

被災地を訪ねて

3・11の被災地の映像が繰り返し報道されていた時から既に1年半が経ち、ようやく現地を訪ねる機会をいただきました。今さらという思いと、今だからできることという思いがあり、参加しました。

休日を利用した大学生や神奈川県職員など団体も参加していました。長期活動しているボランティアリーダーから当初の悲惨な状況を見聞きしたお話を伺い、今日1日の活動を大事にしなくてはと思えました。岩手県内から参加されたご夫婦は、全国からの参加者に感謝されていました。

釜石市の瓦礫は業者がほとんど済ませ山になって分別を待っています。ボランティアへ頼まれる内容も変化しています。暮らしやすくするには行政と被災者の方向が決まらないとボランティアのミスマッチが課題になります。

私たちは午前中、雑草に埋もれた屋敷を作業させていただきました。雑草を刈り込み、砂混じりの地面を少し掘るとまだ生活用品が出て来て、ここで亡くなられたご夫婦の生活が思い起こされ、胸がふさがる思いをしました。

あちこち家の土台はまだ残ったままですが秋には機械で更地にされるようです。自治体によってまちまちですが、瓦礫の山を見なければリアス式のきれいな海岸は湖のように穏やかで、悲惨な津波があったなんて夢のように思えます。

神奈川県議会は本会議と委員会(8つの常任委員会と4つの特別委員会)で構成されており、くさか景子は商工労働常任委員会に所属しています。

商工労働常任委員会

10月1日 質問抜粋

ワークライフバランスの

実現に向けて

県内事業所での育児休業取得率は女性が93.1%、男性が1.2%です。育児は、夫か妻どちらかではなく、2人で子育てすることが望ましいと思います。県として、男性の育児取得率を上げるよう、職場での理解を進め、性別を問わず誰でも取得できるよう働きかけが必要です。

さらに、介護休暇制度を規定している事業所は多いのですが、取得率は男女とも0.05%で殆ど取っていません。今後は、男女に関わらず、家族介護で働き方の見直しが進められます。

また、事業所ではセクハラ相談件数が断トツで多く、相談窓口を設置していただきます。県としても職場で相談できないことや解決に向けての弁護士相談など労働センターの役割が重要です。

男女を問わず、ワークライフバランス

を推進することで、多様な人材が就業を継続できる環境を整えることが重要です。働き方を見直すことで、経済の効率化、生産性向上が図られます。



障がい者雇用の促進

県内では、障がい者を多く雇用している事業所は、36社あり、「かながわ障がい者雇用優良企業」の認定を受けています。さらに、障がい者雇用に力を入れている事業所には県からの発注業務を優先的に受注できるよう契約の要件にするべきです。

また、就業支援を行う機関として障がい者就労相談センターがありますが、マッチングなど就業に結び付けられるよう取り組みを強めていただきたいと考えます。さらに、拡大担当員が雇用率を上げるため、県内の事業所を積極的に回るよう要望しました。



かながわ障がい者雇用優良企業

◇視察報告 8月29日

障がい者雇用歴50年！
雇用率50%！大協製作所の
取り組み（横浜市）

自動車部品等の金属表面処理業の会社です。社員70人のうち障がい者は36人、知的障がいの方が主で、精神障がいの方もいます。仕事は、自動車部品を専用工具に引掛ける作業で、1日7時間50分のフルタイム、年齢も19歳～66歳まで幅広い方が働き、平均勤続年数は14年以上です。皆さん、生き生き、テキパキと働いていらっしゃいます。

社長さんによると、障がい者の方々は立派に仕事ができ、重要な戦力であり欠くことはできない存在です。今まで50年蓄積してきたノウハウを有効に活用しサポートしたいとおっしゃいます。国のトリアル雇用の制度がなくなり、困っており、国県の支援を要望されました。このように、障がい者雇用に積極的な企業へのサポートは重要です。



大協製作所の見学

傍聴記

「緊急財政対策案」に対する「民主」の質疑開始。日下議員を中心にやや突っ込んだ質問も出て来て、前半の「自民」の質問に比べ、やりとりにも多少の緊張感が出てきた。

そもそも、何故世の中がうまく廻らないのかを辿ってゆくと、結局己に戻って来てしまう。とは言え、世の中の仕組みとしては行政に対する「議会のチェック機能」を果たして貰いたい。

いたずらに波風を立てる必要はないが、核心を捉えたせめぎ合いの中で、結果として行政が日々の業務に緊張感を持って臨んで貰うことが大切だと思う。常任委員会はその主戦場であるが、全体としては物分かりの良いやりとりに感じた。

個別には、日下議員の「少額予算の削減が多い」との指摘に対して、「少ない予算でも事務方の手間は同じように掛る」と思わず本音が返ってきた。行政の手間を省きたいのは分かるが事業の必要性がより重要だ。又、削減案として県の事業を市町村に移管する方向性は分かるが、対策として(移管先に)「良く説明する」だけでは、押し付けられる側としては受け入れ難いのはなからうか？相互の信頼関係は出来ているのか？国・県・市町村には大きな壁があり、結果として無駄な税金を使っている。この財政難を梃に行政の連携を密にし、効率の良いサービスを実現して頂きたい。

F・Y

